

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念(ミッション・ビジョン)	【ミッション】(自校の使命) ○自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○主体的な学びが育まれる学校 ○夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ○地域の活力の源として信頼される学校
----------	--------------------	--------------------	---

評価計画				自己評価					改善方案		I 学校運営協議会 評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方案	評価				
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの創造	主体的な学びに向けた授業づくり	○小・中の教員が一体となった教育研究の推進 ・教員のファシリテート力の向上 ・R80を核とした授業デザイン力の向上 ○TT配置による算数科の学力向上・授業改善 ○デジタル指導書やクロームブックの効果的な活用	児童アンケート「授業の内容がよくわかりますか」に肯定的回答をした児童の割合	85%	91.2%	94.8%	111.5%	A	肯定的回答は、ほとんどの学年で90%以上であった。中間に比べて第3学年が10ポイント以上上昇した。研究授業や校内研修を通して、授業づくりへの理解が深まったと考えられる。しかし、肯定的な回答をしていない児童の学力が様々であることから、児童一人一人が達成感をもてる授業づくりを進	さらなる充実した授業にするために、これまでの取組を続ける中で、特に授業の目標や教科の特性への理解をより深めていく。また、定期的に研究授業や校内研修などの授業づくりを学ぶ機会を設け、教員のファシリテート力を向上させることにより、児童が主体的に学びに向かう授業づくりに取り組	○			児童の自己評価が客観的に妥当なものかを判断できるかわかりません。
			○学習チャレンジデーの工夫改善、やり方の指導 ○家庭学習の習慣化、量(時間)の増加・質の向上	児童アンケート「学習チャレンジデーで自分が定めた目標ができた」に肯定的回答をした児童の割合	85%	93.3%	92.2%	108.4%	A	肯定的回答は、ほとんどの学年で95%以上であった。手本となる児童のノートや取組を紹介したり掲示したりすることで、児童の意識も向上した。しかし、学習量だけでなく質の向上を図る必要がある。また、否定的回答の児童が固定化しないような声かけや取組が必要である	学習チャレンジを通して成長した面について児童に振り返りをさせるなど定期的にまとめるを行うことで、自分の学習の質について考えさせる。家庭学習が困難な児童には、家庭と連携し個別の対応をとるなど、学習に取り組める環境づくりを行う。合わせて教員間で連携し家庭学習の量なども適時調整していく。	○			家庭学習の質を高めることは大切と思う。難しさがあるのであれば、お手本を示すなどの工夫をしてはどうだろうか。
		○SSRを核とした不登校対策、相談体制の充実 ○「生徒指導実践上の視点」に基づく教育活動の展開 ○児童会活動の活性化(自治能力の育成) ○体験活動の充実(自然・文化・地域人材の活用)	児童アンケート「自分には良いところがありますか」に肯定的回答をした児童の割合	85%	88.3%	89.8%	105.6%	A	不登校対策支援会議、教育相談委員会の定期開催により、細かな情報共有と対応ができています。安心安全な学校風土を作ることができていることで、児童が落ち着いて生活している。お互いの良さを認め合う活動を継続することによって、良さを発見してもらった児童、良さを発見した児童が共に良い気持ちになり、自己肯定感が上がったと考える。地域人材の活用や社会見学などの体験活動を計画的に行うことで、地域との関わりを深めることができた。	細かな情報共有と対応を継続する。職員同士で気付きを出し合い、注意喚起・情報共有等をこまめに行うことで、課題の解決・未然防止に努める。新児童会の発足に伴い、新しい取組に向けて計画を立て、異学年交流を促進させることで、自己肯定感を高める。引き続き地域人材を活用した社会見学等の体験活動を充実させる。	○			自己肯定感を大切にすることは良い。不登校児童対策は本当に難しい。	
健やかな身体	体力向上と基本的生活習慣の育成	体力づくりの充実 健康教育・食育の推進	○9年間を見通した体力づくり ○体力テスト結果で明らかとなった課題克服に向けた具体的な運動の実施・推奨 ○「金のルール」等に基づく生活指導(早寝・早起き・朝ご飯・正しい食生活への関心の向上)、保護者啓発	児童アンケート「運動することは好きですか」に肯定的回答をした児童の割合	90%	81.2%	84.4%	93.8%	B	「運動が好きか」の問いに肯定的に答えた児童は、84.4%となり、目標値を達成することができなかった。運動が好きな児童を増やしていくために児童会を中心とした全校遊びや体育朝会を実施してきた。	体力テストの結果を受けて、「なわとび」や「持久走」を継続させ、体力や運動能力の向上を図る。また、縄跳びカードなどを有効に活用して体育朝会や学級活動、体育の授業を改善していく。児童会を中心に全校で運動をする時間をつくり、遊ぶことや体を動かすことを楽しく感じさせるとともに、体を動かすことが好きな児童を増やしていく。	○			生活リズムを作ることは家庭との協力なくしてはできない。外遊びを増やすことは大切。
			○OCSの理念や意義の周知・啓発、積極的な情報発信 ○運営協議会・協働本部・活動推進員による取組推進 ○施設一体型連携校としての強みを活かす取組づくり ○地域と協働した防災や交通安全等の教育活動の実施	児童アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に肯定的回答をした児童の割合	85%	86.7%	87.8%	103.0%	A	児童アンケートでは、地域に貢献したいと思っている児童が87%である。地域行事への参加呼びかけを中学生や地域の方から直接受けたり、CSボランティアの方と一緒に活動をしたりと地域と関わる機会が多く、地域への関心を高めることができています。	運営協議会での意見を取り入れたり、コーディネーターとの連携を密にしたりとCSの活動を活発にすることで、地域学習の推進を図る。地域への関心を高め、地域に対する自己有用感をもてるよう取組を進める。	○			地域の連携を積極的に進められていると思います。
働き方改革	風通しの良い職場づくり ワークライフバランスの確立	不祥事根絶 長時間勤務の縮減	○教職員の資質向上に向けた積極的な研修・研鑽 ○ヒヤリ・ハット事案の洗い出し・共有化・即時対応 ○時間外時間の管理(45時間/月)、定時退校日の徹底 ○ボトムアップによる業務改善、働く者の意識改革	保護者アンケート「本校の教育活動に満足している」に肯定的回答をした保護者の割合	85%	95.2%	96.4%	113.0%	A	保護者アンケートでは、肯定的な評価が96.4%となっており、本校の教育活動におおむね満足している。	学校だよりや学級通信などで学校の様子について情報発信を行い、学校への理解を促進する。また、保護者との連携を細やかに、学校と保護者がベクトルを揃えて子供たちに対応できるようにしていく。児童が安心・安全に過ごせるよう日々の声かけ等の取組を継続する。	○			先生方の指導に。敬意を払いたいです
			時間外の在校時間が月45時間以内の職員の割合	85%	83.0%	91.6%	107.0%	A	見直しをもって業務ができるよう行事や学級事務等に係る内容について、各担当者が早めに周知することを意識し取り組んだことで成果が見られた。また、成績処理週間の設定や学期始めの授業カットを計画的に行い業務時間を確保したことで、45時間を超える職員が減少した。	見直しをもって業務が行えるように主任・主事を中心に、早めの起案・周知ができるようにする。授業時数の管理を行いながら、計画的に業務時間の確保をしていく。	○				

【j : 自己評価 評価】

A : 100≦(目標達成) C : 60≦(もう少し) < 80
B : 80≦(ほぼ達成) < 100 D : (できていない) < 60

【I : 学校運営協議会 評価】

イ: 自己評価は適正である
ロ: 自己評価は適正でない ハ: わからない